

「ネパールの持続可能な開発のための科学技術体験・共同実習・交流プログラム 2026」報告

(2025年度国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) さくらサイエンスプログラム採択事業)

聖心女子大学と早稲田大学の学生がネパールのナショナルカレッジの学生を日本に招き、2月24日～3月2日に持続可能な社会をつくるための研修プログラム(2025年度JST さくらサイエンスプログラム採択事業)を実施しました。

2月27日には聖心女子大学キャンパスツアーを行い、グローバルプラザ内 BE*hive での展示および4階バルコニーでの都市緑化の一環としての食用植物栽培の様子を見学しました。その後、BE*hiveにて食用植物を活用した都市緑化に関する講義を実施しました。その他、期間中には国立極地研究所や国立天文台の見学・講義、水再生センターやゴミ焼却工場の見学と講義、日本科学未来館・池袋防災館等での講義・見学・体験、早稲田大学や上智大学での講義を行いました。その他、文化交流を含め、学生がプログラムを企画・コーディネートし研修プログラムを充実させました。

【ネパールから来日した学生による感想】

- ・本プログラムは問題解決能力を高め、世界観を広げるとともに、これらの知見を将来の活動に活かす意欲を掻き立てました。
- ・このプログラムを通じて日本の革新的な科学技術と文化の違いに触れることができたことは、貴重な学びの機会でした。
- ・聖心女子大学のキャンパスツアーでは、施設を見学し、キャンパスの運営・組織・計画について学びました。これは学業プロジェクトや将来の専門職にも活かせるでしょう。また、都市型屋上ガーデニングとその効果的な実施方法についても学びました。私自身が自宅での屋上ガーデニングをしてみたいと思います。さらに、可能な限りあらゆる方法で、他の人々にも屋上ガーデニングを推進していきたいと考えています。

【プログラムに参加した日本の学生による感想】

- ・2025年3月にネパールでのスタディツアーで交流したナショナルカレッジのみんなと日本で「再会」できたことがとても良かったです。そして、ナショナルカレッジ生たちがたくさん思い出を「残す」動きを見ました。写真や動画を撮って思い出を残すことで、ナショナルカレッジ生の今後の生活にどんな影響があるのか、自国に帰った後にどんなメリット、デメリットとなるのか気になりました。
- ・英語のポキャブラリーが増えました。日本では英語を使う機会がほとんどありませんでしたが、このプログラムにおいてコンビニやショッピングなど日常生活の場面でも英語を使えたことが良い経験になりました。
- ・ネパールの学生も日本の学生も活動中に真剣に話を聞き、多くの質問をしていたことが印象的でした。講義に興味を持ち、グループワークにも積極的に取り組むなど、主体的に参加していた姿がとても良かったと感じました。
- ・前回ネパールを案内してくれたナショナルカレッジの学生に日本を案内することができて、恩返しができる気がして良かったです。また、自分の英語力を気にしてしまい、積極的にコミュニケーションを取れなかったのもっと英語力を高めたり積極的になりたいと思いました。
- ・来日したナショナルカレッジの皆さんの熱意や明るさに触れ、自分ももっと広い視野を持って社会に貢献できる人間になりたいと、自身の将来や学びの姿勢について深く考えることが出来ました。また、日本の日常を彼らに案内する中で、自分自身も日本の良さや課題を客観的に見つめ直す貴重な機会になりました。

【活動の様子】



聖心女子大学 パレス見学



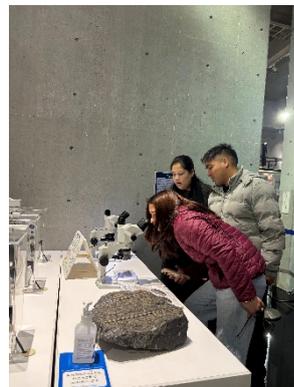
グローバルプラザ 食用植物栽培見学



聖心女子大学 都市緑化に関する講義



聖心女子大学 集合写真



国立極地研究所の見学・体験



ゴミ焼却工場の見学・講義



共同シンポジウム

(教育学科教授・グローバル共生研究所所員 杉原真晃)